

# 感染症情報 11月26日～12月2日

府下小児科199医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1419例(堺市 115例)
②溶連菌感染症	562例(堺市 69例)
③咽頭結膜熱	158例(堺市 11例)
④みずぼうそう	139例(堺市 8例)
⑤手足口病	102例(堺市 11例)
⑤RSウイルス感染症	102例(堺市 6例)

府下インフルエンザ定点304医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 379例(堺市 64例)

感染症報告数は前週比28.5%増の2,726件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、咽頭結膜熱、みずぼうそう、同数で手足口病、RSウイルス感染症の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週比38%増、堺市で前週比98%増であった。溶連菌感染症が府下では前週より25%増、堺市で前週64例→69例は8%増であった。咽頭結膜熱は府下で前週比15%増、堺市で15例→11例であった。みずぼうそうが府下で前週比48%増、堺市で前週12例→8例であった。手足口病が府下で前週より2%増、堺市では前週8例→今回11例であった。RSウイルス感染症は府下で前週より5%増、堺市で5例→6例であった。なお、報告第8位の伝染性紅斑(りんご病)は府下で13%増とまだ増加中(堺市では3例)。

インフルエンザは府下で前週173例→今回379例であった(119%増、定点当たりの報告数は1.2)で、府として流行開始の目安となる1.0を超え、流行期入りとされた。堺市では前週49例→今回64例となった(31%増、定点あたり2.2)。

麻疹の報告が府下で2例あり。風疹が府下で前週10例→今回6例あった(堺市は1例)。